

なぜ日本人は考古学好き？  
奈良でカナダ大学院生が調査

日本人が考古学に強い関心を見せるのはなぜか。慶応大学大学院研究生として留学中のカナダ・マギル大学院生クレア・フォーセットさんが、奈良などをフィールドに、日本人の考古学に関する意識調査をしている。

カナダやアメリカでは、遺跡が直接自分たちの祖先に結びつかないことが多く、それに身近に遺跡がない。しかし、日本人は単一民族で古代と太いきずなで結ばれ、歩いたら遺跡にすぐぶつかる。これに加え、歴史と伝統を大切にする民族性によるものではと考へ、博士論文の研究課題に取り上げた。

具体的には、文化財行政や担当者の実態はどうか。どうしてこれほど関心が高いか。開発と保存の関係はどう考へるか。考古学ニュースはどのように国民に伝わるか。マスコミの役割は—などを調べており、専門家はもちろん、考古学に関係ない人も、奈良と開発が盛んな千葉で二百五十人にインタビューした。

(読売新聞奈良版、二月十七日)

サスカチュワン州の名誉市民  
に東北電力と丸紅の社長

東北電力の玉川敏雄社長は、カナダ・サスカチュワン州から外国人として初めて名誉市民の称号を授与され、「同州と東北の信頼の絆(きずな)を深めることができた」と、新たな喜びをか

みしめている。

このきっかけは、東北電力が原子力発電の燃料であるウラン資源の長期安定確保を狙いに、五十五年に日本の電力会社では初めて同州のキーレイク鉱山と、二十年間の長期にわたるウラン鉱石の購入契約を結んだこと。

同鉱山は世界最大級のウラン鉱石埋蔵量を誇り、高品位のウランを産出する。

授与式では玉川社長と、商社として契約をとりつけた丸紅の春名和雄社長の二人が名誉市民称号を受けた。

(日刊工業新聞、二月七日)

バンクーバーから小学生  
札幌で交歓学習や民泊

ようこそ、カナダのお友だち——白石区の東白石小学校(高橋一美校長、児童数七百九十一人)に「サケ交流」を続けているカナダ・バンクーバー市のメープルウッド小学校から三十九人の子供たちが交歓学習のために訪れ、二月七日、学校をあげての歓迎集会が開かれた。

東白石小学校は五十四年から独自のサケ学習に取り組んでおり、毎年、児童が育てたサケの稚魚を豊平川に放流している。両校は「サケおじさん」として日本でも親しまれているカナダのジム・マレーさんを通じて知り合い、



池田町がブルームボール大会

ほうき(ブルーム)とゴムボールでやるアイスホッケー——池田町が2月3日、北海道で初めて「ブルームボール」の大会を開いた。ブルームボールは、カナダで大衆的なスポーツとして人気があるが、池田町としてはカーリングと共に町民に普及したいと考えた。

(写真提供・北海道新聞)

五十八年から児童の作品などを交換。サケが結んだ縁で友好を深め合ってきた。

子供たちの相互訪問は今回が初めてで、メープルウッド小学校の六、七年生(十一〜十二歳)三十九人と、付き添いのオードリー・ホップス校長らが六日夜に来札。東白石小の五、六年生に滞りながら版画などの交歓学習や市内見学を行う。(北海道新聞、一月八日)

盛岡市とビクトリア  
五月に姉妹都市提携

新渡戸稲造が取り持つ縁でカナダ・ビクトリア市との姉妹都市提携の準備を進めている盛岡市は、五月に太田大三市長らがビクトリア市を訪れた際に現地で調印式を行うことになった。ビクトリア市は盛岡市出身の国際人新渡戸稲造が昭和八年に客死した地。

(岩手日報、二月二十三日)

●大西洋沿岸地方のことを、カナダの西部や中部の人々は冗談に「地の果て」と呼ぶことがあります。地図で見るとなるほど、トロントやモントリオールといった都市からはるか遠くに位置し、また実際に訪れても縹びようたる感じを免れません。

●しかし、ヨーロッパ人がおそらくカナダの有史前からタラを漁し、やがて大航海時代に至って次々と探検隊を派遣し、さらには初めて植民者を送りこんだのも、この一帯だったのです。いわばカナダ揺籃の地、というわけです。

●カナダ建国を境に、過去百年余、経済地盤が低下し、過疎化が進んで、再び歴史の檣舞台から消えたかのように見えた大西洋沿岸地方ですが、最近になってようやく明るい展望が開けてきました。この地方が「地の果て」と呼ばれなくなる日も、そう遠くないでしょう。

●本紙送付先の住所変更等についてのご連絡は、事務の都合上、ご面倒ですが、はがきでお願いします。

(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三三三

カナダ大使館広報部